

もくじ

	タイトル	作家名	
1	2011 春・・・	橘 良子 2
2	祈り・そして復興へ	松原 正俊 4
3	REQUIEM 3・11	松本 公夫 6
4	巨大化のMIME	潮田 英彦 8
5	マグマ	工藤 恒子 10
6	Bouquet	杉本 治平 12
7	『生成の神秘シリーズ～命の光輝～』	中川 宇妻 14
8	海からのメッセージ	阿蘇千鶴子 16
9	洋遊空間	澤口 脩江 18
10	山手風景	吉野 光治 20
11	世界のこども達	相笠 昌義 22
12	海岸風景	濱 實 24
13	仁	樺島 貞 26
14	裏通り（フィレンツェ）	吉越 淳子 28
15	さくら草 / シクラメン	浜頭 正晃 30
16	木曾の里	依田 節子 32
17	春	吉田 耕治 34
18	ノスタルジア	栗原 幸男 36
19	氷川丸	手塚 精三 38
20	パッチワークの丘—美瑛	松井 秋華 40
21	大山新緑の頃	鈴木 啓司 42
22	相模川の辺りで	長谷川成之 44
23	A P r i o r i T o w a n e 10 - 2	大矢 雅章 46
24	D e l f t - 3	穂積 千幸 48
25	Romance to Water, Connection 2012	佐藤千恵子 50
26	我々はどこへ行くのか	若林 元司 52
27	四季屏風	松山 徹 54
28	青空の天使	稲葉 勝子 56
29	s n u g g l e s	佐藤 菜緒 58
30	浮遊する木々	山本 修子 60
31	六地藏	清水 擴 62
32	押絵羽子板「道成寺」	藤田 緋祥 64



2011 春・・・

橘 良子

版画(モノタイプ)(2011年制作) 80号

作品について

「生命の叫び」のようなものをテーマにしている私にとって昨年、2011年3月11日の地震・津波・原発事故は言葉に出来ないほどの衝撃を受けました。

とりわけ、原発事故は生命の危機を強く感じ、終わりのない戦争が始まったように思っています。

この作品はそんな思いを込めて制作いたしました。



橘 良子 (たちばな よしこ)

1949

東京都品川区生まれ
テキスタイルデザイナーを経て銅版画を始める

2002～2011

公募厚展

2003、2005、2006

日本版画協会展

2004

神奈川新聞社賞受賞

2005、2006、2009

FUKUIサムホール展奨励賞受賞

座間市立図書館ミニ展

2005、2008、2011

Graphic From todz トリエンナーレ展(ポーランド)

2006

個展 清川泰治記念ギャラリー

2007

第15回プリント21グランプリ展

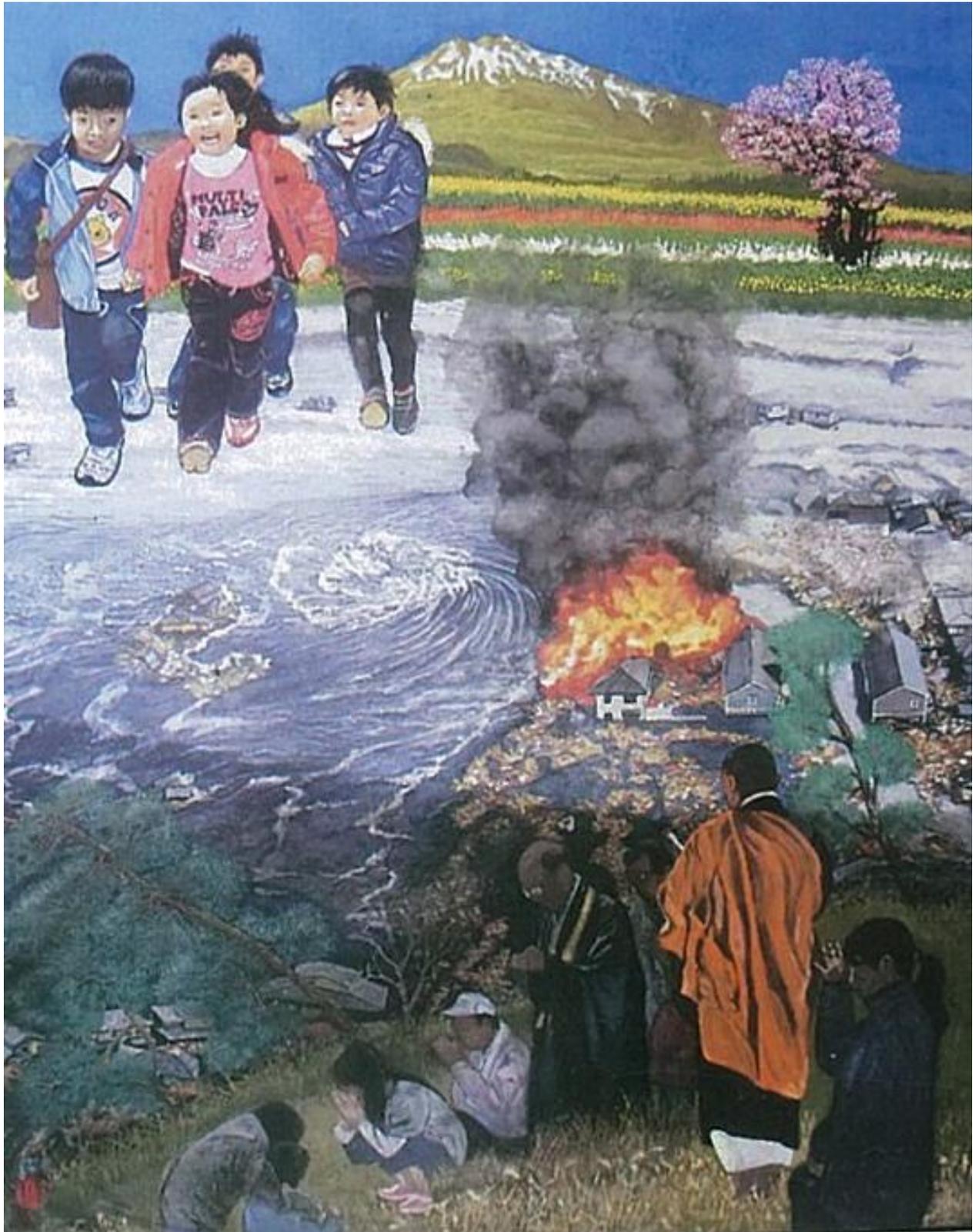
横須賀市制100年公募展『横須賀』版画部門

2010

FUKUIサムホール展優秀賞受賞

公募厚展 秀作賞

個展(器ギャラリー陶里庵、ギャラリー誠文堂、ギャラリーアニータ)



祈り・そして復興へ

松原 正俊

日本画(岩絵の具・ニカワ・雲肌麻紙)(2011年制作) F30号

作品について

下部分-大震災後の後、気持ちが沈み暗く(色で表す)一生懸命の祈り、手を合わせる！

中間部分-大きな震災・津波が襲う、火、煙等で悲惨さを…！

上部分-新しく芽生え、枯木に桜の花を咲かせ、新しい花々に子供達(これからの世代)明るく前進する姿を…一日も早い復興を表現！

制作意図

昨年3月11日の未曾有の大震災、その前の「関西淡路大震災」で小父の家が崩壊し片付けの手伝いが頭から離れず…今回の災害に何か出来ないか、と模索の中から出来るのは絵で表現しそれにより多くの人に励ましや小さくも力になればと作成したものです。(昨年秋に「上野の森美術館」に展示され多くの人々に賞賛されたものです。)



松原 正俊(まつばら まさとし)

1940	東京都目黒区大岡山に生まれる
1944	戦争のため山梨県甲府市に疎開
1952	「山梨県下合同学生展」で特選、知事より豆画伯の称号を受ける
1976	座間市ひばりが丘に在住
2000	定年退職を機に長年の夢の日本画を開始
2001	林信夫(日本画家・芸大卒)・丸岡雄道(日本画家)両先生にアドバイス・レクチャーを受ける
2002	「カルチャー全国合同展」初出展
2003～	第4回・第8回「日美展」日本画部門「佳作」受賞
2005	「第10回日美展」日本画部門「秀作賞」受賞(国立新美術館)
2007	「大和市文化祭展絵画部門」「議長賞」受賞
2010	「かながわシニア美術展」日本画部門「優秀賞」受賞 「第39回近美春季展」「奨励賞」受賞
2011	「第37回近美展」入選(上野の森美術館) 「第38回近美展」入選(上野の森美術館)
	地元を中心に活動、現在に至る



REQUIEM 3·11

松本 公夫

油彩(2012年制作) F100号

作品について

昨年(2011年)の3月11日の東日本大震災は忘れられない日となりました。

その大津波の状況は、仙台の知人からの動画メールやテレビ、YouTube等の映像で見ました。あまりにも衝撃的だった。

実はこの前日、浅草公会堂の「東京大空襲資料展」に行っていました。昭和20年3月10日は、一夜にして10万人以上の都民が命を失った日です。この悲劇を二度と繰り返してはならない、その思いを込めて、そして当時を偲んで冥福を祈るために毎年参加しております。

戦争と自然災害との違いはありますが、鎮魂の思いは同じです。この日(2011.3.11)南三陸町の「防災対策庁舎」で防災無線で町民に避難を呼びかけつづけ、多くの命を救った女性職員、自らは津波にのみ込まれてしまった。そして、その庁舎は全て流され鉄骨だけとなった。また、多くの子供たちも犠牲になった。地元紙に掲載されていた、泥だらけのランドセルが並べられていた写真は、胸がしめつけられる思いです。

あれから1年以上たったが、親を子を探し続けている報道を見て、心に刻まれた深い傷跡は消えていないと感じました。原発の不安はもっと深刻です。三月十日も含め“忘れてはいけない日”がまた一つ増えました。

鎮魂と祈りを込めて、そして一日も早い被災地の復興を願ってこの絵を描きました。

鉄骨だけとなった庁舎から「天使の声」が聞こえませんか。ガレキの中に埋もれたランドセルの持ち主は、早く見付けてほしいと叫んでいるかもしれません。ドラム缶は合掌の形です。

今度は、美しくよみがえった、東北の海や街を描いてみたいと思います。



松本 公夫(まつもと きみお)

1936

生まれ

1996

三菱石油退社

1997

入社以来社内美術部にて無羅多正健先生に師事

1999～

座間市絵画同好会「グループ1」で濱實先生に師事

2003～

座間市絵画同好会「グループ1」会長

2008

座間市美術サークル連絡協議会会長

2009

春陽会 神奈川研究会 会員

2010

第86回春陽展 初入選

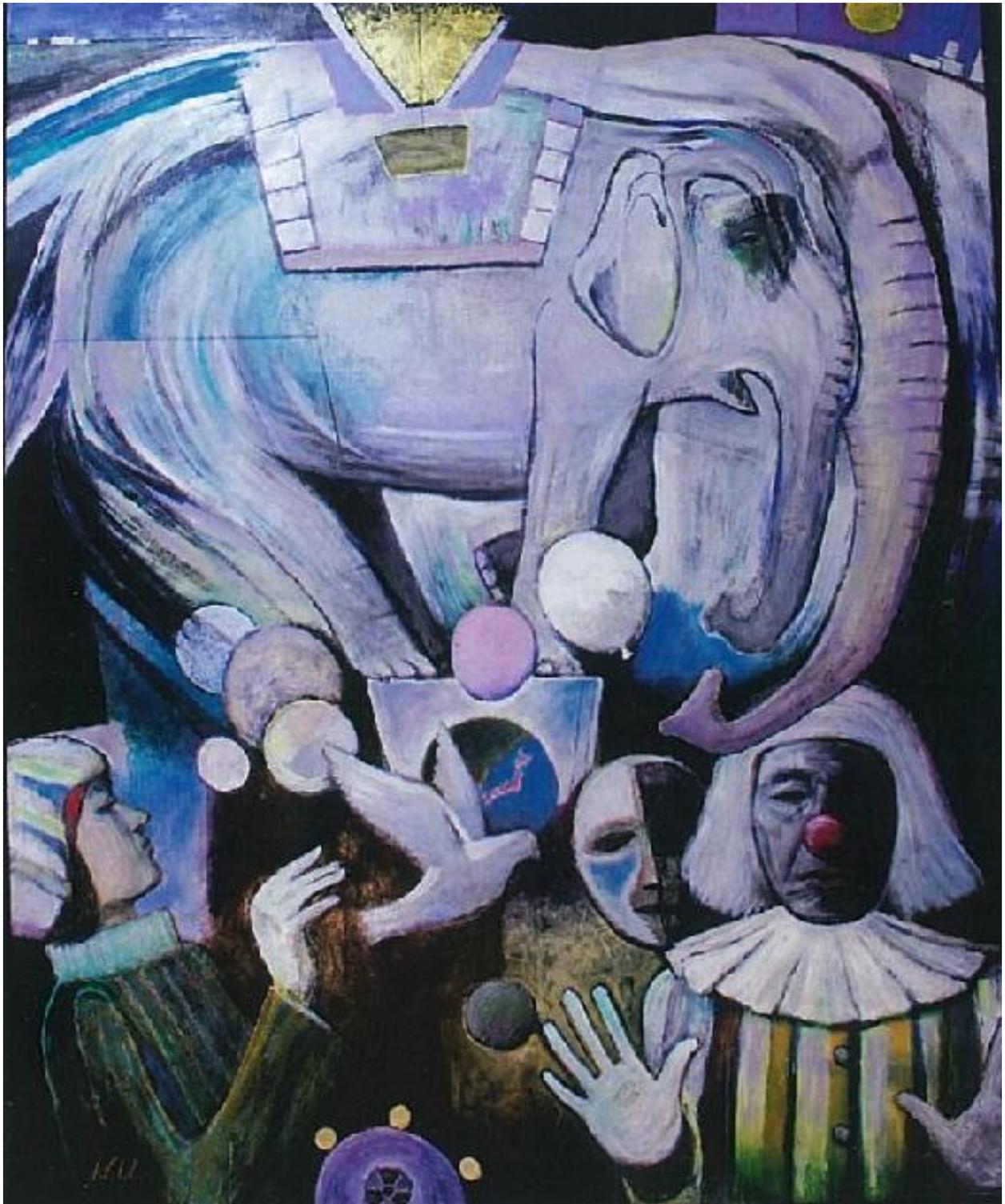
2011

第87回春陽展 入選

2012

第88回春陽展 入選

第89回春陽展 入選



巨大化のMIME(マイム)

潮田 英彦

油彩(2012年制作) F100号

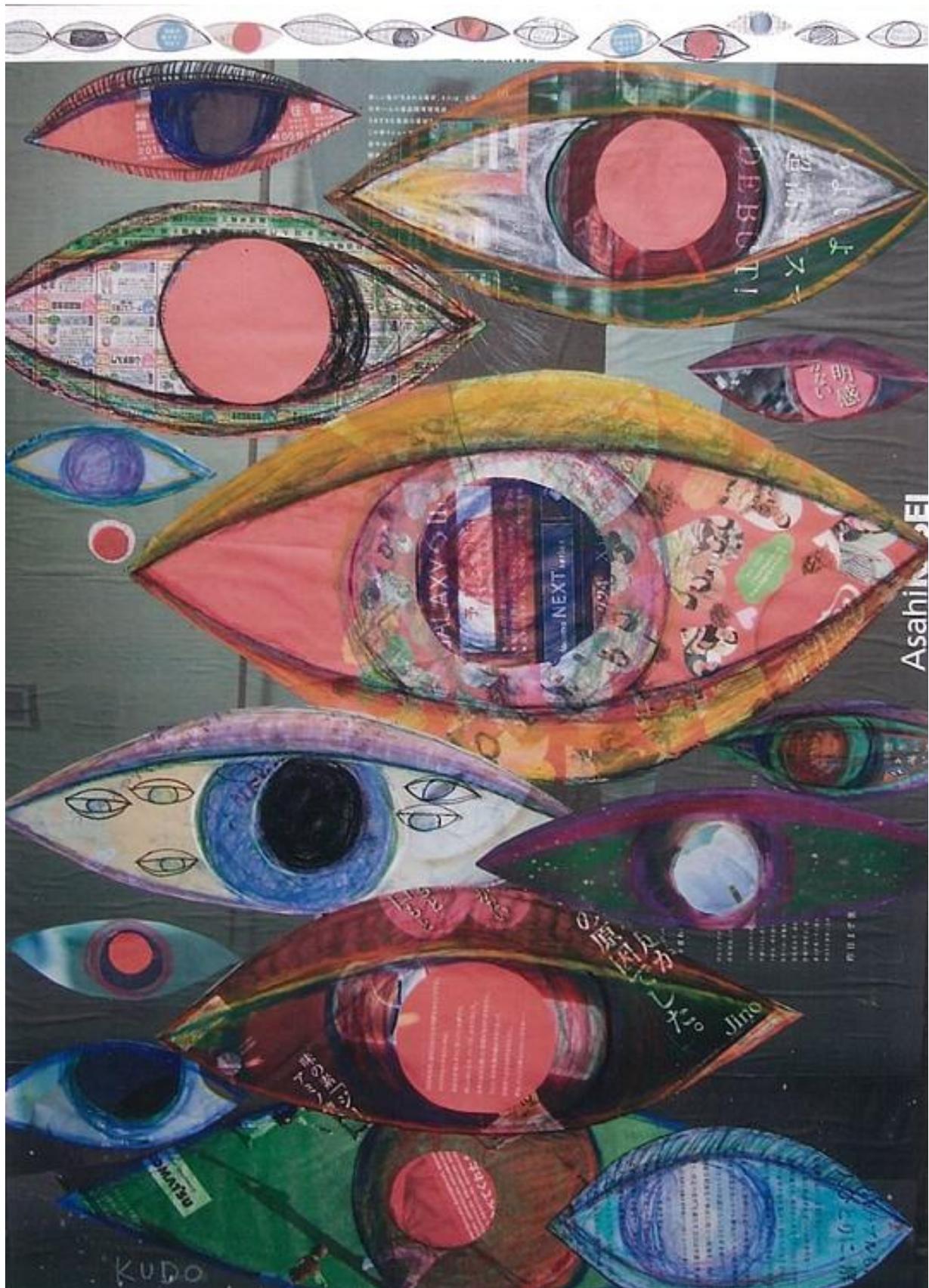
作品について

大地震、大津波、原発災害に苛まれ、元気を取り戻そうと必死の日本、今私は、齢81を越えました。元気にあふれる若い方々に未来の希望を託しつつ、かたや体力の衰えた自分の現状は、精神的にも肉体的にも嘸ってばかりはおられないことばかりです。…そこで老人の元気は、気まぐれと頑固さと偏屈とをユーモアにしようとする努力にあると考えました。

作品についての解説

私は創元会という日展系の公募団体に属しています。日展は自然の実物や実景を写生し、写実を尊重します。その中で、創元会は比較的自由ですので、私は自由な発想で作品を発表しています。この絵のモチーフは写生によるものではなく、描写は写実ではありません。私の発想の元は絵画に関する書物からのものが多いです。特に昔から興味を持ってよく見ている本に「絵でみるシンボル辞典」というのがあり、その中で老年のシンボルとして道化、仮面、タンバリンなどの楽器がよく出てきます。私は80歳になったこの2、3年、自己の内面的な自画像みらいなものを道化に仮託して作品にしてきました。今回の絵は大震災から1年、自然環境の変化を背景とし、絵の中のモノの描写に自分なりに何らかの意味を持たせて作品としました。

潮田 英彦 (うしおだ ひでひこ)	
1931	福岡県生まれ 創元会の画家に指導を受ける 会社勤務の傍ら創元展に出品
1987	創元会正会員となる 創元展での受賞3回
1997～	「日展」に出品 個展・グループ展あわせて30数回
2001～	座間市公民館にて絵画グループ「よつば会」講師
2003	大和美術協会主催「大和展」の審査員を4回務める
2004	座間市教育委員会主催 Tit展 座間市教育委員会主催 潮田英彦展



マグマ

工藤 恒子

コラージュ(2012年制作) 73.7×103.7

作品について

1991年の普賢岳の爆発のマグマは勿論のこと、2009年にテレビで再び放映された火山のマグマを見て、地球の持つエネルギーに興味を持った。

2009年からコラージュの表現方法で20点ほど制作。

毎日配達される新聞紙の中に、印刷されている全ページ、半ページなどの美しい広告。

一流企業が一流のデザイン会社に委託した一級品の美しい広告。色や文字、写真などすぐに捨てるのには勿体ない作品たち。

2008年から子供達を集めてコラージュの手法で作品づくりをし、ギャラリーに展示をした。

私も2009年から新聞紙だけでコラージュを20点ほど制作したが、今回はパステルも使って表現してみた。

工藤 恒子 (くどう つねこ)	
1962	女子美術大学図案科グラフィックデザイン卒
1975	東京都大田区にてブティック・アニータを開業(1980年閉店)
1978	座間市入谷にてブティック・アニータを開業
2007	ギャラリー・アニータを開業(ブティック・アニータ閉店)
2009～2011	大和展に出品
2011	初めての個展 ギャラリー・アニータ



Bouquet

杉本 治平

油彩(2012年制作) F10号

杉本 治平 (すぎもと はるひら)	
1930	岡山市生まれ
1953	関西学院大学経済学部卒業 あさひ銀行(現りそな銀行)入行
1994	同行定年退職
1997	油彩クラブ「よつば会」創設 講師 潮田英彦氏に師事油彩を始める
2001	中山智介氏(抽象画)に師事
2005	第六回大和公募展に佳作賞入賞
2007	第九回厚展公募展に佳作賞入賞
2008	第十回厚展公募展に銅賞入賞
	ほか グループ展多数出品 現在 座間市緑ヶ丘在住



『生成の神秘シリーズ～命の光輝～』

中川 宇妻

油彩(1995年制作) F100号

作品について

中川宇妻は、生成の神秘シリーズを描き続けている。抽象画メインであるが、サブテーマとして、「佐渡の狛犬シリーズ」「佐渡の能面シリーズ」「お花シリーズ」「祈りシリーズ」などかなりリアルな描法でも描き、テーマごとには最低 10 点以上の連作としている。常にコンセプトを導入し描き続けている。

中川 宇妻 (なかがわ うつま)	
2008	世界アートアカデミー賞
2009	日仏交流 150 周年記念芸術祭 OASIS International 2008 in Paris サンミッシェル賞 地球環境芸術徳行功労賞 ART MAISON JAPON IN Madrid Exhibition
2010	日本・オーストリア外交 140 周年記念美術展 日欧芸術交流文化賞
2011	日本・ポルトガル文化交流芸術大賞 和のノクターン 芸術平和賞 Heart Art In Tokyo 2011 第 14 回エイズチャリティ美術展 金賞 日本芸術協会展最優秀賞 『日本・ドイツ修好 150 周年記念美術展』 大賞 Japan Art Festival in Frankfurt am.Main 2011 スワン ホール(旧市庁舎レーマ内) Art Tapestry Festa in Fawaii 展 ハワイ大学カピオラニ校・ウインドワード校 主催; Hart Art Communication 第 43 回国際公募メキシコ美術賞展 (メキシコハリスコ州プエルト・バジャルタ市) グラン・サロンパジャルタ コンベンションセンター
現在 天理美術会委員、日本芸術協会理事、GALLERY NAKAGAWA(主催)	



海からのメッセージ

阿蘇 千鶴子

油彩(2011年制作) S100号

作品について

2005年頃、腰越にスケッチに行った折に楕円形のような「かたち」からイメージがふくらみ始めて生まれた絵が、2006年座間市「抽象への挑戦」に出品した作品でした。

その後、毎年海からのイメージを表現して発表をつづけ、この作品が7枚目になります。



阿蘇 千鶴子(あそ ちづこ)

2001～2003	新槐樹社展受賞 2回 東京都美術館
2004	アジアの新生展 銀座中和ギャラリー
2005～	モダンアート展 東京都美術館 09年新人賞 賞候補4回
2005～2011	女流画家協会展 東京都美術館
2006～2010	モダンアート「明日への展望展」 埼玉近代美術館、横浜市民ギャラリー
2006	座間市奨励美術展 ハーモニーホールギャラリー
2009	Contemporary Artist Exhibition from Japan & Bangladesh 現代作家 16 人展 銀座中和ギャラリー 個展2回 銀座井上画廊 ほか グループ展 現在 モダンアート準会員



洋遊空間

澤口 脩江

油彩(2011年制作) S60号

作品について

東へ西へと自由な空間と、心の中にあるフォルムを探求し表現。



澤口 脩江(さわぐち のぶえ)

1984～1996	京都市生まれ 神奈川女流展
1998～2000	難波田龍起 青起会展(銀座)
2001～2011	女流画家協会展
2001～2003	春陽展
2003～2011	大和女流会員 大和審査委員賞
2005～2012	モダンアート展
2006	座間奨励展 抽象への挑戦
	ほか 全日本絵画大賞展 優秀賞 佳作 個展・企画展多数(銀座・神田・九段下・横浜・八王子・座間)
	現在 モダンアート準会員



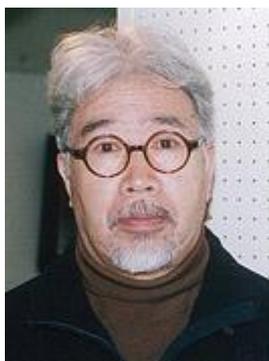
山手風景

吉野 光治

油彩(2010年制作) 90×72

作品について

自作を語るものではなく、自由に気儘に描いている



吉野 光治(よしの こうじ)

1939	神奈川県藤沢に生まれる 日大芸術学部卒 在学中より植村鷹千代の指導より、全神奈川アンデパンダ展 美術文化、 新象展にアンフォルメルな作品を出品する
1968～1990	三軌会に出品
1975	坂崎乙郎の奨めで二紀会の研究会に通う 以降、作風は具象に転向する
	現在 無所属



世界の子ども達

相笠 昌義

油彩(2009年制作、2012年加筆) 80号

作品について

時折、海外へ行くことがある。私は外国のめずらしい風景にそう興味がない。愛憎も含めて人間にしか興味がない。だから現地で知りあった人々をかったばしからスケッチする。

特にこども達と接するのは楽しい。今迄各地で出会ったこども達と一緒に並べた構図で作品にした。ヒト科のホモサピエンスは一属一種である。異なる風土の違いで、黒くなったり白くなったりしているに過ぎない。世界のすべての国の人々が何の違いもなく、一種類であり、優劣の差もないことに多くの人が気づいたら、人々はもっと仲良く暮らせると思うのだが。



相笠 昌義(あいがさ まさよし)

1939	東京都日本橋に生まれる
1962	東京藝術大学油画科卒業(小磯良平教室)
1964	アンデパンダン64点出品 東京都美術館
1971	第15回シェル美術賞展 3等賞
1979	第29回芸術選奨文部大臣新人賞(美術部門) 文化庁美術家在外研修員としてスペインに1年滞在
1982	第25回安井賞展 安井賞
1987	相笠昌義・その世界展 池田20世紀美術館
1988	多摩美術大学教授となる
2004	相笠昌義-版画・油彩・素描展 町田市立国際版画美術館
2005	収蔵品展・相笠昌義 日常生活展 東京オペラシティアートギャラリー
2006	聖学院の礼拝堂のステンドグラス制作
2008	第31回損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞 相笠昌義展 多摩美術大学美術館
2009	日常生活—相笠昌義の世界 茨城県つくば美術館
2010	損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞記念 相笠昌義展-日常生活

パブリックコレクション

東京国立近代美術館 京都国立近代美術館 栃木県立美術館 東京都現代美術館 神奈川県立近代美術館 町田市立国際版画美術館 新潟市美術館 茨城県立つくば美術館 宮崎県立美術館 目黒区美術館 福岡市美術館 文化庁 佐久市立近代美術館 刈谷市美術館 多摩美術大学 早稲田大学 東京オペラシティ—アートギャラリー 損保ジャパン東郷青児美術館 など

現在 多摩美術大学名誉教授、日本美術家連盟委員



海岸風景

濱實

油彩(2011年制作) F60号

作品について

北海道は函館生まれ。港、海、山、トラピスト、函館山の中腹にあるハイカラな洋風の街並み…
それらが、今になって画因になっております。

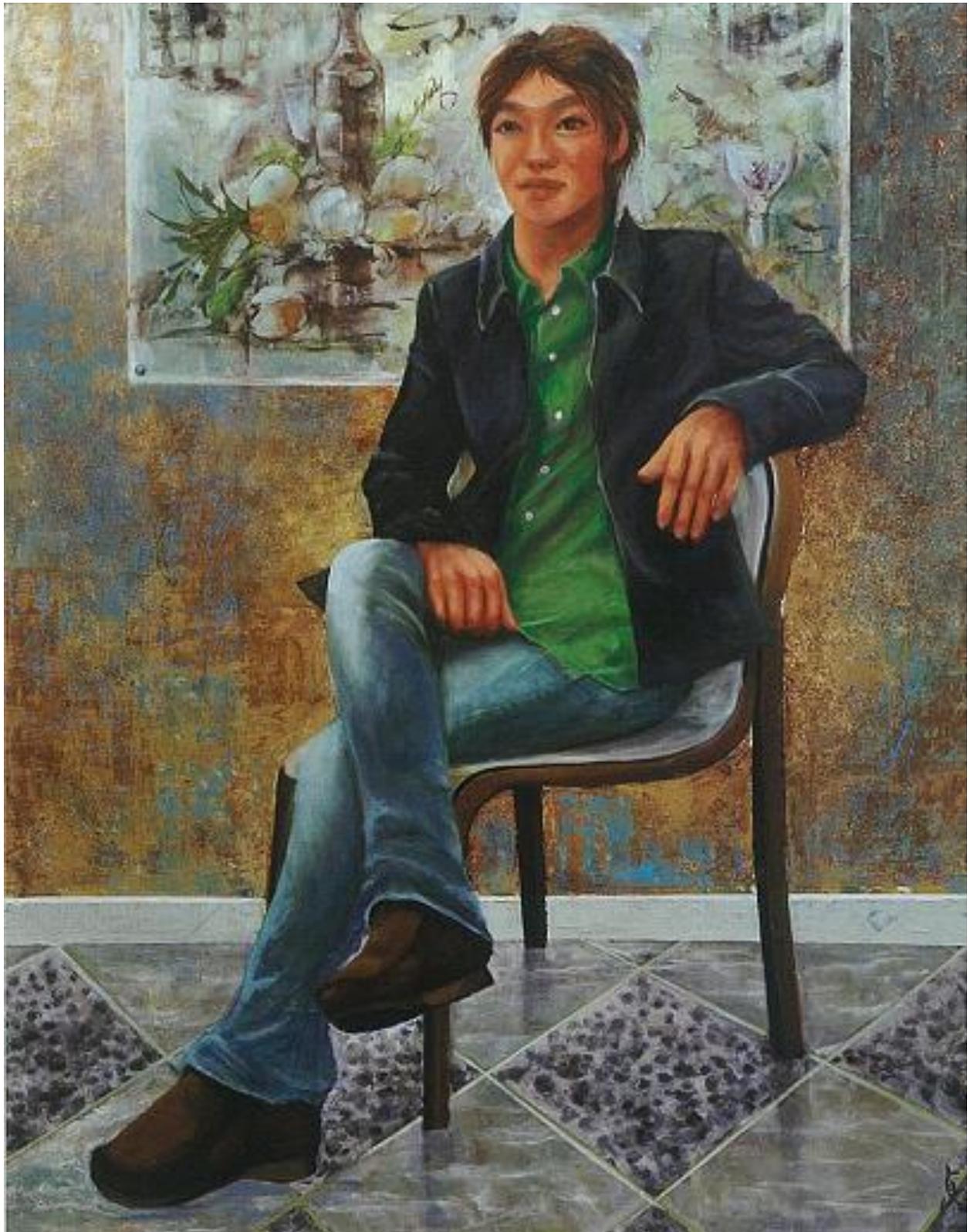
描いているうちに暗い絵になってしまいます。未熟のなせることです。



濱 實 (はまみのる)

昭和9年 函館生まれ
バリアカデミー、グランショウエミールにてデッサンを学ぶ
春陽会に出品はじめ、同会の三雲祥之助氏、小川マリ子氏に師事する
同会にて研究賞、国際形象展招待出品、庭園美術館での新東京百景展、
兜屋画廊個展、座間「Tit展」への出品など

現在 春陽会会員、日本美術化連盟会員、座間市公民館サークル・海老名
コミュニティセンター・朝日カルチャーセンター新宿・文京区民大学油絵講座な
どの講師をつとめる



仁(ひとし)

樺島 貞

油彩(2012年制作) F100号

作品について

仁は若い作曲家。何時、如何なる時も彼の頭の中では、メロディーが流れている。
若者のさりげない仕草の中にも若者らしい清楚さ、夢を抱く固い決意が感じられたらうれしいと思います。



樺島 貞(かばしま てい)

1992	旺玄会初出品 以降19年
1997	旺玄会会友推挙 新聞社賞
2002	旺玄会会員推挙 厚展会友賞
2003	(株)きかんし”ぷりおーる”表紙絵1年間掲載
2004	第1回個展 東京近代美術館 厚展会員推挙
2005	第2回個展 (東急 企画)
2006	第3回個展 (論談 企画)
2007	旺玄会支部 旺玄会賞 旺玄会支部 奨励賞 旺玄会 努力賞
2008	東光展 全国小品部コンクルール佳作賞
2009	第1回ビネロの会 (銀座松坂屋)以降5回 ”創作の喜び” 座間市教育委員会個展 ハーモニーホール座間 第5回個展 プリジストン美術館
	現在 旺玄会会員、女流ビネロの会所属



裏通り(フィレンツェ)

吉越 淳子

油彩(2012年制作) F100号

作品について

私は、古い倉庫や建物を描くのが好きです。その建物には、歴史や表情があるからです。

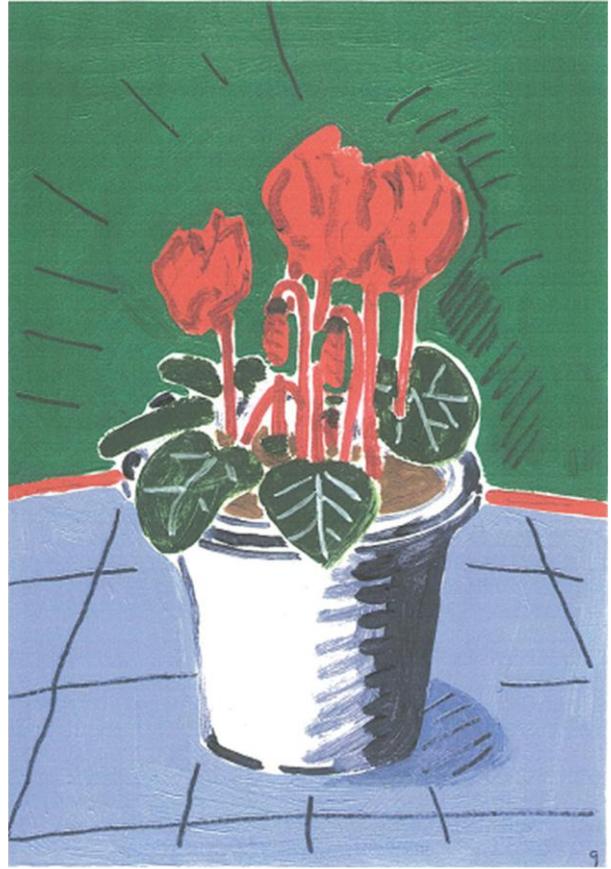
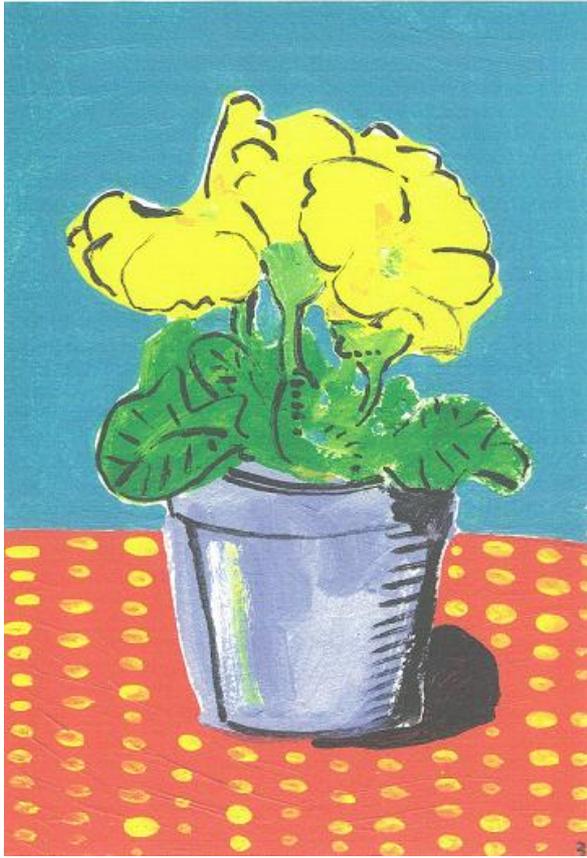
この「裏通り」の作品は、娘とイタリアへ旅行をしたときに、フィレンツェのヴェッキオ橋を渡って、路地を入った所で、私の目に留まった建物です。いかにも古く昔は、何だったのか大変興味が沸きました。

壁の側面を重厚な感じを出す為に、左官屋さんの仕事の様に何度も何度もナイフで塗ってマチエールを作っていくのがとても面白いです。建物だけでは物足りないので人物を手前に置いてみました。



吉越 淳子(よしこし あつこ)

	横浜に生まれる。 15才より一水会委員泉治彦先生、一水会創立者の一人木下孝則先生に師事
1962	一水会展 初入選
1963・1964	一水会展 入選
1990～2004	一水会展 入選
1996	女流画家協会展 初入選
1997・1998	女流画家協会展 入選
1998	北の大地ビエンナーレ展 入選
1999・2000	厚展 会友奨励賞
2004	一水会会友推挙
2004・2010	神奈川一水会展 出品
2008・2011	現代パステル協会展 入選
2009	現代パステル協会会友推挙
	一水会会友、神奈川一水会同人、現代パステル協会会友



さくら草(左) / シクラメン(右)

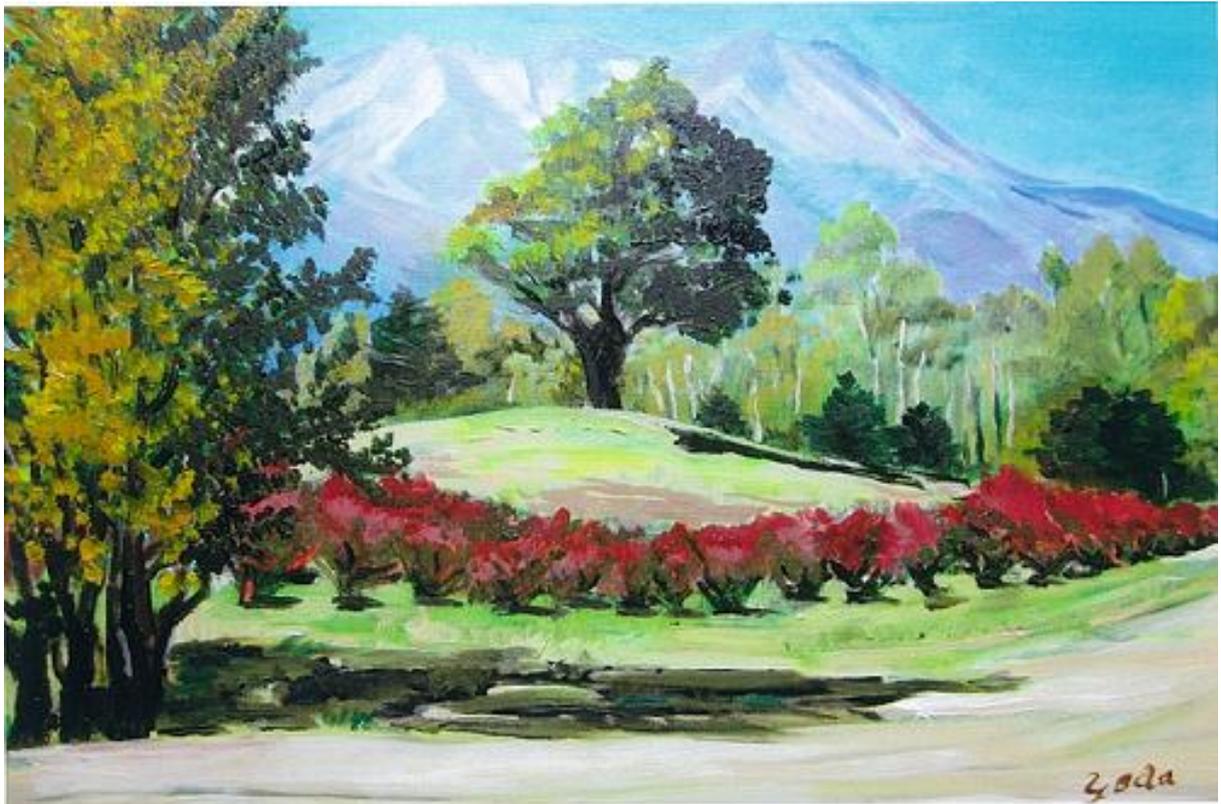
浜頭 正晃

油彩(2012年制作) SM / 油彩(2012年制作) SM

作品について

花に興味があり今迄描いた絵の殆どが花です。これからも花だけを描き続けたいと思います。
花以外にあまり興味がありません。

浜頭 正晃 (はまがしら まさあき)	
1940	福井県生まれ
1960	東京都新宿区にて印刷関係の仕事に就く その後60歳で退職
2000	以前から興味を持っていた油絵を趣味として始める
2011	座間アートの今展 ハーモニーホールギャラリー



木曾の里

依田 節子

油彩(2007年制作) P6号

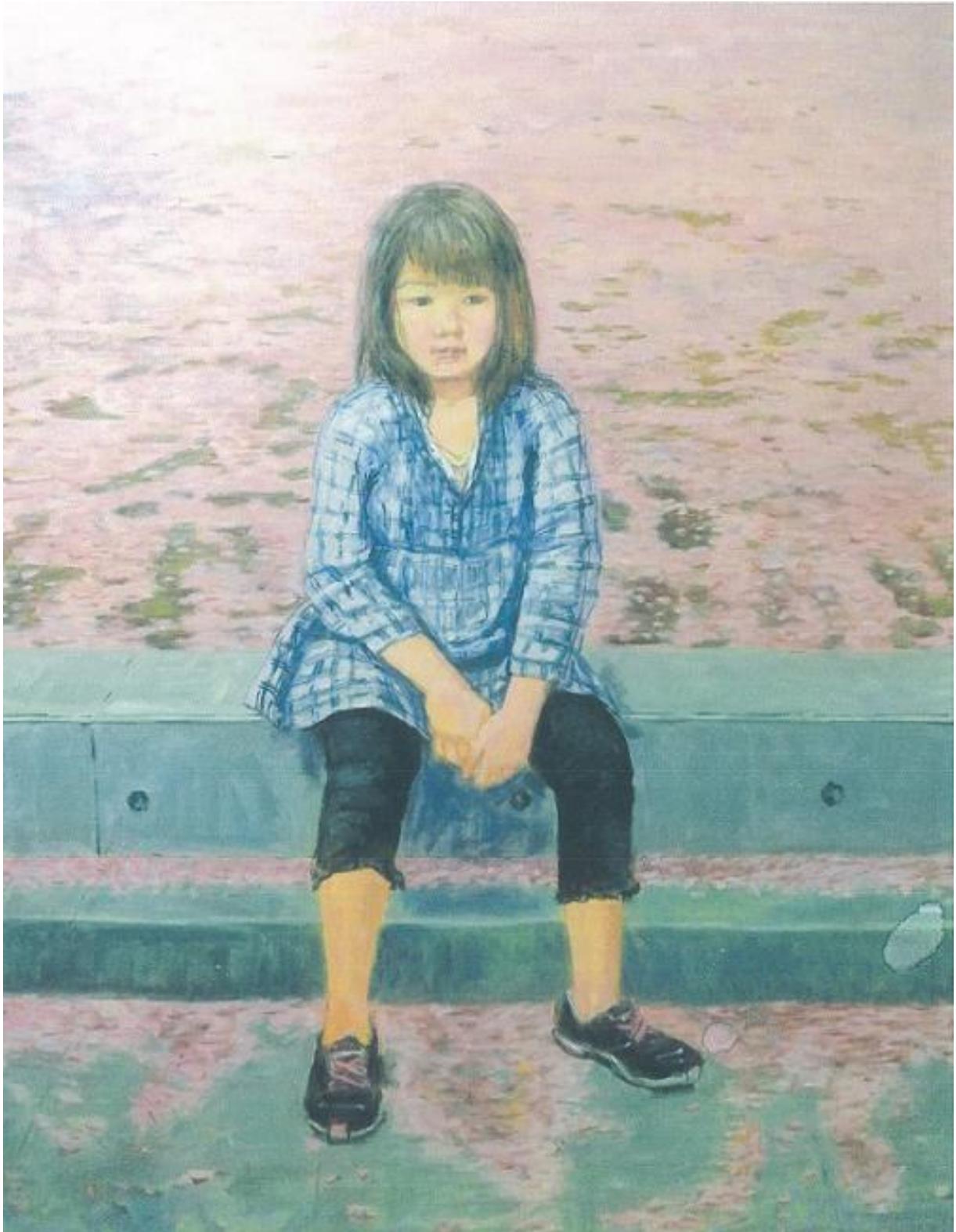
作品について

爽やかな高原風景を感ずるままに描いてみました。

御岳山を仰ぎ見ながら…



依田 節子(よだ せつこ)



春

吉田 耕治

油彩(2012年制作) 30号

作品について

子供の可愛らしさ、花びらの散っている桜をうまく表現できればと思い、挑戦してみました。

吉田 耕治 (よしだ こうじ)	
1997～	白日会会友
	白日会入選5回 油絵
1999	モーブの会(東地区文化センター)入会・所属
2006	白日会退会
	ハマ展入選2回 油絵



ノスタルジア

栗原 幸男

油彩(2004年制作、2012年加筆) F50号

作品について

定年を機に始めた油彩画は、よつば会で潮田英彦先生の指導の下8年前に初めて50号作品を描き、大和市展(公募展)に応募したところ、図らずも「市長賞」を受賞。

この結果が以後の絵画制作活動への大きな原動力・モチベーションに繋がりました。

今年の第2回展に出品すべき新作品が、諸事情で環境が整わなかった為間に合わず、今回は大作を制作する転機にもなった、2004年・大和市長賞受賞時の作品を少しリメイクして出品しました。

作品に描き込んだ古い柱時計とキツネの面は、公民館の教室で静物画として取り組んだモチーフで、これらを観ながら自身の少年時代を回想し、懐かしい祭りや遊び道具類なども加えて「ノスタルジア」に浸ったわけです。

ご高覧の同年代の方がたに少しでも共感を抱いて頂ければ幸いです。



栗原 幸男(くりはら ゆきお)

1940	埼玉県飯能市生まれ
2000	NEC定年退職を機に絵画サークル(よつば会・講師:潮田英彦氏)に入会。 以後、幻羊塾(品川)等複数の絵画グループに入会学習
2004	大和市展 市長賞
2005	初個展 大和・画廊喫茶オルセー
2006	2回目個展 六本木・ミュゼふうあんぬ
2007	太陽美術協会展(上野) 会友優賞
2008	3回目個展 座間・ギャラリー・アニータ
2011	太陽美術協会展 銅賞

現在 日本美術家連盟会員、太陽美術協会会員、大和市美術協会会員



氷川丸

手塚 精三

油彩(2011年制作) F80号

作品について

氷川丸は、戦前、外国航路の豪華客船として世界中で活躍し、ブラジルの移民等を担当し戦中は攻撃を受け、沈没する多数の船の中でも生き残り、戦後は引揚船等に従事し、人々の喜びも悲しみも乗せてたくましく無事に使命を果たしました。

今、老いて静かに休んでいる姿を見て感銘を受けました。

きびしい栄光のある過去を考えると本当にご苦労様でしたという気持ちになり、その思いを込めて描きました。



手塚 精三(てづか せいぞう)

元県美術協会会員。創元展入選、外遊6回
個展8回
流形美術会委員、大和美術協会名誉会員



パッチワークの丘-美瑛(びえい)

松井 秋華

油彩(2009年制作) P40号

作品について

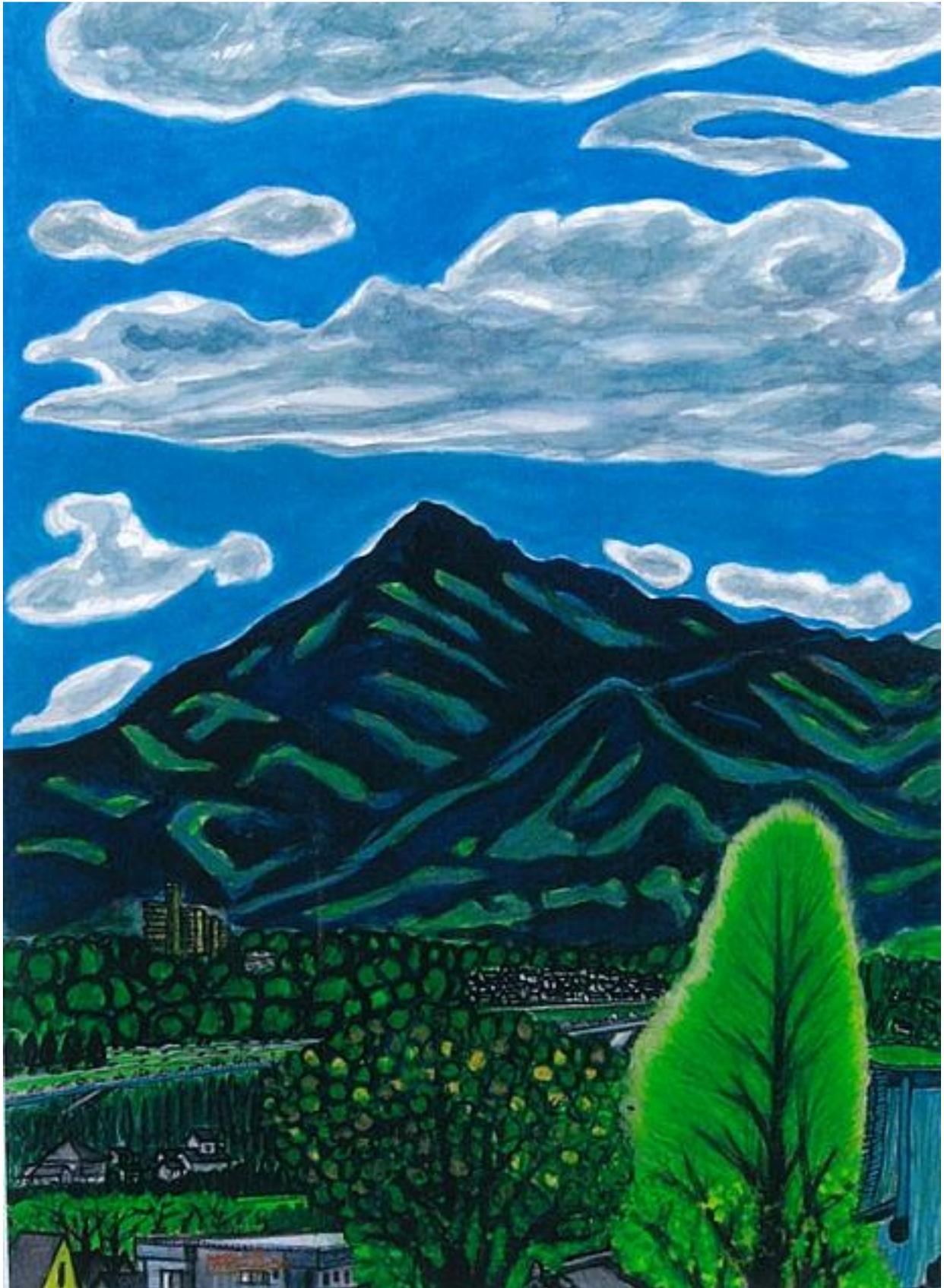
世界でも有数の田園風景を誇る、北海道の美瑛(びえい)。作家は子供時代、数年をこの地で過ごしたという。“美の原風景”に恵まれた画家の天運を、年月を経て、見事に描き上げた感動的な作品である。澄んだ空気を伝える透明感のある色彩、地平線が円く見える遠大な土地の広がり、そして何より、清らかな北海道の青空の秀抜な表現が一体となり、神々しい効果を上げている。画面右上の農民達の姿にも、描いた作家の美瑛への愛があふれている。

評ノクリスティーヌ・モノープ(フランス人・美術評論家)



松井 秋華(まつい しゅうか) サイン・Schuka

1979～1981	彫刻家・松崎明彦氏に師事、デッサン・油絵・水彩画を学ぶ
2008	第15回公募展新成会 銀賞 新成会会員
2009	第16回公募展新成会 金賞 第36回公募展近代日本美術協会 入選
2010	近美会員 第16回国際総合芸術大展(韓国釜山市) 理事長賞
2011	「現代文芸」(第11版) 佳作賞 洋画とパッチワークによる個展 六本木画廊
2012	フランス芸術最高勲章受章 日本の自然を描く展 入選 上野の森美術館 OASIS・2012 in大阪&ローマ展 出展 洋画とパッチワークによる個展 東京交通会館
1991～現在	(財)日本手芸普及協会認定指導員としてパッチワーク&キルトの入選・受賞・個展その他



大山新緑の頃

鈴木 啓司

水彩(2006年制作) P40号

作品について

相模川がさわやかな季節感に包まれる新緑の頃相模大山は、時として迫力にあふれた山容を見せることがあります。

その山容に大きな雲をマッチさせて、スケール感を出そうと試みてみました。

この風景は座間公園から眺めたものです。

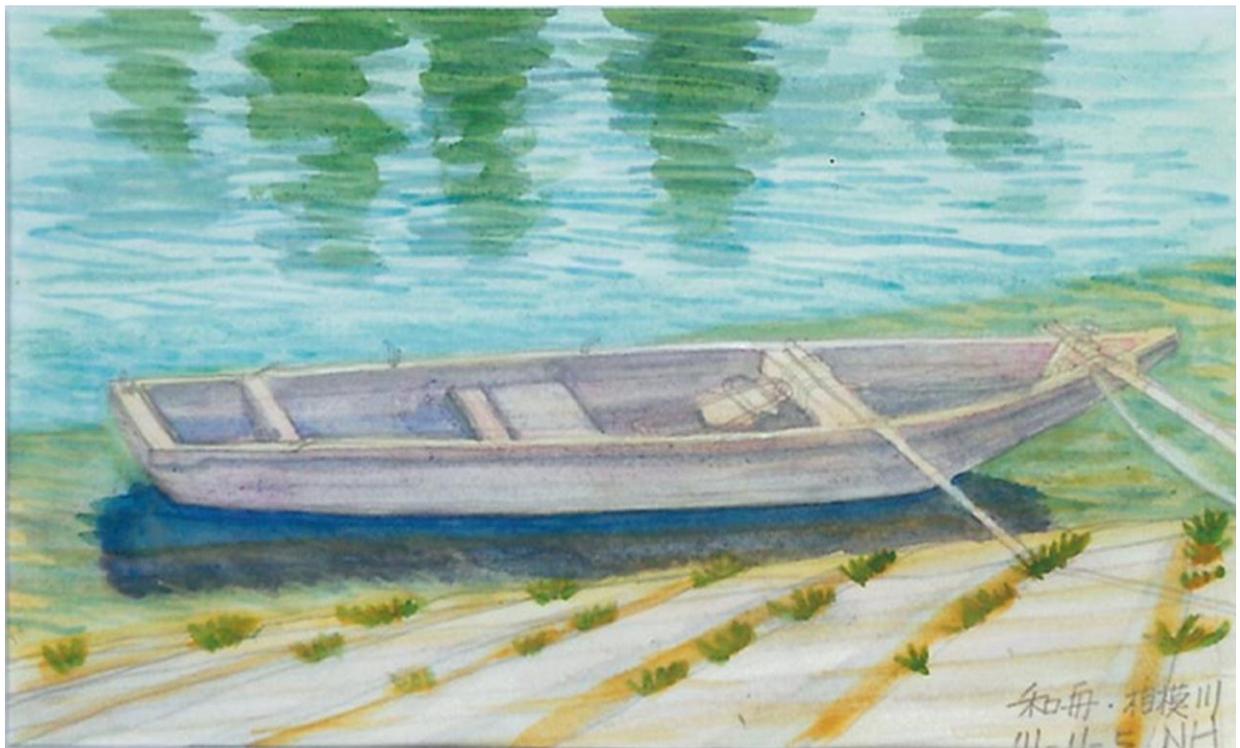
制作意図とスタイル

- 1 地場の者でなければ描けない風景画を描く
- 2 相模川とその周辺の風景に専念し、水彩で描く
- 3 現場主義：夏冬かまわず野外がアトリエ
- 4 現場には自転車で行くが、片道2時間以内であること
- 5 決定した現場には1～3か月間通い続けて、大小2～5枚の絵を描く
- 6 風景は絶えず変化する。制作期間を通じて1番気に入った風景(色彩、空気、天候、山容、雲、木々等々)を組み立てる



鈴木 啓司(すずき ひろし)

1941	東京都大田区生まれ
1964	明治大学卒業 現在 明大美術研究会OB会員
1975～	座間市に在住
2001	60歳を機に、相模川とその周辺を水彩画で描くことに専念する 地元コミセン祭、北文祭、市民芸術祭に毎年出品
2003	オルセー会に加入、同グループ展に出品を続ける
2003～2010	さがみ美術展出品
2008	吉田馨氏と「相模川を描く2人展」 画廊喫茶オルセー
2010～	オダサガ美術展出品 オダサガプラザ



相模川の辺りで

長谷川 成之

水彩(2011年制作) G6号(24×40)

作品について

参加グループのスケッチ会が相模原市の「清流の里」であり、それに参加(平成23年11月)。その時の作品。

対岸に大きな中洲のある所で岸辺を上流に向かって歩いていたら川岸に和舟の舳舟(もやいぶね)があり、それをモチーフとして描く。

舟以外は岸の石積みと水面の構成。水面を三つに分け浅い部分と深い部分は、対岸の木立の影を入れて二分してバランスを取ってみる。

長谷川 成之 (はせがわ なりゆき)	
1937	生まれる
1958～	サラリーマンとして会社で仕事、結婚、子育て等社会生活の中で余暇を日曜画家として過ごす
1997～	現役退社(定年)日曜画家の延長で毎日画家として活動を継続して現在に至る
	現在の活動
	1 良い絵が描ける為体力作り(歩き)
	2 活動日を多くする為複数のグループに参加して作品の作成回数を増す(スケジュールの作成・実行)
	3 反省会(グループでやる時は参加)自宅で作品の展示、修正(反省)する
	4 グループ展の参加(参加しているグループ展)作品の仕上げを見てもらうことが楽しみです(但しストレスになるので公募展の参加はしない)
	5 作成記録
	①絵に関するメモ(台帳)
	②自作品のファイル(グループ展毎、ほか)
	6 公募展の見学
	①日展
	②日本水彩画展
	③その他案内のある展示会(選択)



A Priori Towane 10 - 2

大矢 雅章

版画(銅版画(エッチング・アクアチント))(2010年制作) 45×60

作品について

私の作品は銅版画のエッチングという技法で制作しています。この技法は銅の板に絵を描いて薬品で腐蝕することで、10円玉の表面のような凹凸のある原版を作り、版画とする技法です。銅版画は絵を描くということと、科学実験をするような要素を合わせもつ技法です。私はこの技法が大変好きで20年近く取り組んでいます。そして、その技法で作る作品のスタイルは、少しずつ変化してきましたが、座間市で生まれ育った私の創作の原点には、座間市の豊かな自然からインスピレーションを得た「終わらない生命の営み」が常にあります。近隣の芹沢公園に散歩に出かけ、鬱蒼とした森の中を歩くと、静かな世界の中の多くの生命の営みを感じます。

この作品は、ここ数年制作を続けている「A Priori Towane」シリーズの作品です。題名は造語で「A Priori」はラテン語で先天的な、「Towane」は日本語の永遠音を掛け合わせた、「終わりになく続く」ということを表現した言葉です。本作品は終わらない時間の中で、生まれ散る生命の輪廻を表現しています。

<p>大矢 雅章(おおや まさあき)</p>	
<p>1972 1998 2002～2003 2008～2009 1999 2001 2002 2006 2007 2010 1997 2001 2008 2009 パブリックコレクション</p>	<p>履歴 神奈川県座間市生まれ 多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修了 深沢幸雄・森野真弓・渡辺達正氏より銅版画を学ぶ 文化庁新進芸術家インターンシップ研修員制度により加納光於氏に師事 文化庁新進芸術家海外留学制度在外研修員としてパリ滞在 個展 大矢雅章版画展 すどう美術館(東京)11 大矢雅章版画展 ギャラリー・スペース・M(群馬)01,03,05,07,09,11 大矢雅章版画展 湘南台画廊(神奈川)03,06,10,12 大矢雅章版画展 養清堂画廊(東京) 04,06,08,10,11 大矢雅章展 ギャラリー砂翁・TOMOS(東京) 大矢雅章展 もみの木画廊(東京) 大矢雅章展 ギャラリーアニータ(神奈川) 受賞歴 THE FIRST MINI-PRINT BIENNIAL CLUJ - ROMANIA ROMANIA <大賞> 第69回版画展 <版画協会賞> 第13回台湾国際版画ビエンナーレ 台湾 <銀賞> IX Graphic Art Biennial DRY POINT Uzice 2009 SERBIA <金賞> 町田市立国際版画美術館, 佐喜真美術館, 浜松市美術館, 多摩美術大学美術館, 国立美術館 台湾, The Tikotin Museum of Japanese Art ISRAEL, 他</p>



Delft(デルフト)ー3

穂積 千幸

版画(木によるリトグラフ)(2012年制作) 80号

作品について

チューリップをモチーフに、約 9.5cm×9.5cm(正方形)サイズの小作品130枚を「木を使ったリトグラフ」で制作し、80号のパネルに貼りました。版画のインク、青色はオランダのタイルであるデルフト焼を模しました。この作品は、80号パネル3枚シリーズで、今回は新作のDelft-3(デルフト-3)を展示しています。

「木を使ったリトグラフ」(通称:木リ)日本から世界に発信する新技法

元来、リトグラフ(平板)は、石やアルミ板を使いますが、この技法は合板をはじめ多くの木版を使用します。木は多孔質のため顔料(ソリッドマーカー、解墨ほか)で絵を描き、製版後、木版と同じように彫る事もでき、木目を絵の中に取り込む事もできます。刷り取りが非常に良いので、プレス機を使わないで、足によって刷る足刷りが可能です。(考案:小作青史 多摩美術大学名誉教授)

チューリップ

生まれて初めての海外生活がオランダでした。その地でチューリップの絨毯に魅了されて以来チューリップは私の作品のテーマになりました。色や形も様々で、観ていて飽きることはありません。とりわけ、どんなに厳しい寒さの中でも、土の中では球根がじっと耐え、必ずやって来る春を待つ…そんな健気なチューリップが大好きです。これからもライフワークとして、夢と希望を持って挑戦してゆく気持ちを、生命力溢れるチューリップに託して表現してまいります。



穂積 千幸(ほづみ ちゆき)

1984	女子美術短期大学造形科卒業
1988	ヘリット・リートフェルト・アカデミー卒業(オランダ)
1994~2012	国展・版画部 出品
1995~2004	朝日チューリップ展 入賞・入選('99 審査員賞、'00 秀作賞)
2005	二人展(Atelier 1888 in Schijf オランダ)
2006・2011・2012	Miniprint International(カダケス、スペイン)
2008	木を使ったリトグラフによる表現展(イタリア、ローマ) 女子美卒業生版画展 前期 ギャラリー・アニータ
2009	女子美同窓生による版画展 ギャラリー・アニータ
2010	座間市教育委員会主催 座間に生きる版画家たち ハーモニーホール座間
2011	座間アートの今展 ハーモニーホール座間 個展「木を使ったリトグラフ」銀座・ギャラリー和田
2012	日仏現代国際美術展 新作家賞 11月1日~11月6日個展(予定) ギャラリー・アニータ
	現在 国画会版画部会員



Romance to Water, Connection 2012 |

佐藤 千恵子

版画(リトグラフ)(2012年制作) 71×53

作品について

私は湧き水のある水の美しい土地柄で生まれ育ちました。小さい頃のキラキラと光る美しい水との思い出が私の制作の大きなテーマとなっています。

水の惑星、宇宙に浮かぶ地球はあまりに美しい。そして水が無ければ生命は存在しない。その水によってもたらされる豊かで楽しく、奥深い自然の様を表現しようとチャレンジしています。



佐藤 千恵子(さとう ちえこ)

	女子美術大学絵画科洋画専攻卒業 座間にて20年にわたり、森の子供たち造形教室を主宰し美術指導に携わる
2003～	毎年春陽展入選
2004	タイ、日本交流展出品 小野画廊(銀座)にて個展
2005	ぶなの木(名古屋)にて個展
2007	スウェーデン、日本交流展出品 府中美術館市民展示室 ギャラリー・アニータ(座間)にて個展
2008	スウェーデン、日本交流展出品 京都市美術館大陳列室
2011	日韓交流展出品(ソウル) 春陽会会友



我々はどこへ行くのか

若林 元司

版画(木版)(2012年制作) 64×83

作品について

一つの出来事を様々なアングル、次元でとらえることで、今まで見えなかったものが見えてくるのではと
考えながら制作しています。

この作品の「我々はどこへ行くのか」というタイトルは、ゴーギャンの名作からとったものです。

図々しいとは思ったのですが、現在ぼくの中で—これからぼくらはどこへ向かっていくんだろう—という問
いは、ますます強くなってきているので、このタイトルをつけました。

若林 元司 (わかばやし もとし)	
1964	神奈川県座間市生まれ
1986	東海大学海洋学部航海工学科卒業
1993	個展「カオスからの創生」 町田市立国際版画美術館
1995	ニューヨーク留学
2000	「ハワイ・ヒロナショナルプリントビエンナーレ」展 買い上げ賞
2002	「ニューヨーク バイ ニューヨークーズ」展 招待出品 NY市立博物館
	「メッセージフロムニューヨーク」展 スカイギャラリー大阪
2004	助成金を得て、ヨーロッパ4か月一周旅行 日本帰国
2008	個展「NEW YORK-ENERGY OF THE CITY」 ギャラリー・アニータ
2010	「ざまに生きる版画家たち展」
2011	「座間アートの今展」



けやき

いちよう

四季屏風(まつ、もみじ、いちよう、けやき)

松山 徹

版画(コラージュ実物版)(2009年制作) 82×280

作品について

実物の草花を台板に貼りつけ版を作る実物版画、これをコラグラフとも言います。

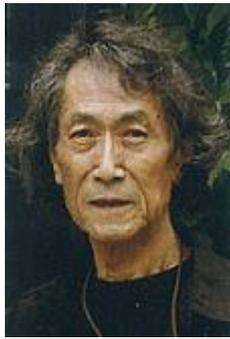
創作者は米国のグレン・アルプ。

版を作るコツは草花の水分を十分に抜き取り剥がれないように接着させることです。

刷る絵具は油性インクを使用し、バレンによる手刷りまたはプレス機で刷ります。

下地版に重ねたりして多色版として重厚な作品にすることも可能。刷りによって肉眼では見えない微細な植物の顔が美しく刷り取れたりして、立体を平面化した形の意外さに心が躍ります。

散歩でふと手にした草花が作品となるこの楽しさ。草花は万化の造形です。



松山 徹(まつやま とおる)

1936	北海道函館市生まれ 北海道教育大学、武蔵野美術大学卒
1970	国画会・現代日本美術展・国際彫刻展 出品
1984	日仏現代美術展 パリ・グランパレ美術館 「旅」交通公社出版 日本旅行記賞
1998	マレーシア、ペナン州立美術館企画個展 クアラルンプール国際交流基金ギャラリー企画個展
1999	バンコク国際交流基金ギャラリー企画個展 タイ大学巡回展
2001	水性摺り木版画特別講座 バンコクシーナカリンウイロート大学 神奈川県・マレーシアペナン州友好記念美術展企画開催 地球市民神奈川ぶらざ(横浜)
2006	平成17年度座間市芸術文化セミナー 木版画30年の軌跡展 ハーモニーホール座間
2010	ALPHA UTARギャラリー企画個展 マレーシア
2012	日々の呼気紙版画展 ギャラリーベエルジェ(相模原)



青空の天使

稲葉 勝子

ティッシュペーパードール+墨象(2012年制作) 115×90

作品について

座間市内にも、現在の世の中の悲しみ、苦しみなどにもがいている青少年達が居る。その子達に笑顔、元気が戻り、青空をあおぎ、さわやかな、やる気を持った、立派な大人になってほしいと願い作ってみました



稲葉 勝子(いなば かつこ)

岩手県盛岡市生まれ
兄の油絵(三軌会正会員・亡)、父(亡)の南画を見て育つ
小学校・中学校で入賞数回(見よう見まねで兄に叱られた)
書は書道春秋社で師範を取ってから墨象、かなを渋谷竹経先生(神奈川県審査員・亡)に指導を受ける
ティッシュペーパードールは24歳の時考案、県立青少年会館、図書館にて青少年に指導
書とティッシュペーパードールと合わせた作品を町田人形連盟に発表
平成24年4月朝日新聞シティー版に紹介される

現在 相模原市、座間市、町田市より指導要請多数あり



snuggles

佐藤 菜緒

木彫(2012年制作) H33 W60 D60

作品について

木という素材がもつあたたかみを感じながら、動物、主に人のそばに寄り添って生きるペットの木彫作品を制作しています。

[Snuggles]というタイトルは、この作品のモデルになった猫につけられていた名前で、寄り添う・抱き寄せるという意味です。

人に寄り添える作品を制作して行きたいと思っています。



佐藤 菜緒(さとう なお)

2007	女子美術大学芸術学部立体アート学科 卒業 卒業制作「とととと」優秀作品賞受賞 小田原市木彫アトリエ「Moc」所属 小田原市内の小学校・シルバー大学でのワークショップ施設の遊具制作などの活動を行う
2008	グループ展「ファミリー展」(愛知 ぶなの木)
2009	パブリックアート「仙台の光 風」制作設置 (仙台 ミッドプレイス仙台タワー & レジデンス BRIGHT HALL) 個展「at home」ギャラリー・アニータ
2010	彫刻の五・七・五 Haiku-sculpture2009 出展(沖縄)
2011	グループ展「5 works」(銀座 Ginza Gallery Joshibi) 彫刻の五・七・五 Haiku-sculpture2011 出展(台湾)
	現在 女子美術大学芸術学部美術学科立体アート専攻 助手



浮遊する木々

山本 修子

立体(2011年制作) 77×25×117

作品について

大山丹沢連峰に沈む夕日の移り変わる神秘さの中に引き込まれる



山本 修子(やまもと しゅうこ)

2002	いけばな造形大学野外展(栃木)
2003	いけばな造形大学野外展(厚木) works野外展(鎌倉)
2004	works野外展(滋賀)
2005	works野外展(箱根)
2006	アキバスクエア(秋葉原) 未来を見つめる展 流形展 (上野)
2007	かねこファーム野外展(横浜) CAT展(グリーンホール相模大野)
2008	works野外展(箱根) CAT展(グリーンホール相模大野)
2009	優美会展(銀座)
2010	Bankart展(横浜)
2011	日仏文化交流展(パリ) 環太平洋展(東京)
2012	ギャラリーしみず 個展 ギャラリー社(2003・2005・2008・2010)



六地藏

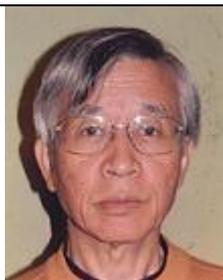
清水 擴

陶芸(2012年制作) 高さ20cm程度のもの7点

作品について

仏教に「輪廻転生」という考えがあります。人は死ぬとまた生まれ変わりますが、生前の業によって生まれ変わる世界が異なります。地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上で、これを「六道」と呼びます。六地蔵は六道に落ちた衆生を救い出してくれる、と信じられ、平安時代頃から盛んに信仰されるようになりました。昨年の福島原発の爆発事故は地球というかけがえのない環境を蹂躪し続け、自然界を意のままに操れると考えた人間の傲慢さが招いた、ひとつの結果であったように思います。輪廻転生の考えに基づけば、生きとし生けるものに対する思いやりを失った人間の多くが地獄・餓鬼・畜生道に落ちるのは必然といえましょう。自分自身を含めた人間の救済を祈って、六地蔵を制作してみました。

六地蔵の姿形に定説はないようですので、無垢な子供の姿に託し、親地蔵からいままに生まれ出る形に表現してみました。



清水 擴(しみず ひろし)

1945

茨城県生まれ
東京工芸大学名誉教授・工学博士
専門は日本建築史の研究

2005～

陶芸家・蓮沼道子氏の指導を受ける
陶芸クラブ土有楽主催
座間市在住歴37年
『座間の古民家』執筆(1979年、座間市教育委員会)
『座間市史6ー民俗編』分担執筆(1993年、座間市)
座間市史編さん審議会委員(2期4年)



押絵羽子板「道成寺」

藤田 緋祥

人形(2011年制作) 70号

作品について

お正月の代表的な遊びの一つ羽根つき、現在ほとんど見られませんが、日本の伝統文化の一つを、いつまでも残していきたいと願って制作しました。東京下町の浅草の「羽子板」市は今も盛んですが、今はかざり物になっていますね。子供たちが凧揚げと同様に遊びに取り入れてくれたらな、と願っています。

地方によっては結納の時に(床の間などに)飾るところもあります。

「道成寺」について

歌舞伎十八番の踊りの一つ「道成寺」は安珍、清姫で有名な題材です。和歌山県の「道成寺」にまつわる伝説からとりました。



藤田 緋祥(ふじた ひしょう)

1934	東京都生まれ
1965	人形美術協会入門
1967	故 福田緋啓先生に師事 全日本人形師範会所属
1970	『日本人形の作り方』(日本テレビ)に出演
1981	全日本人形師範会総合師範
1983	人形美術協会正会員 参与師範(雅号)緋祥
1985	各種美術展に出品 教室開催
2002	座間市在住、現在に至る